



西村証券

チーフストラテジスト  
門司総一郎の

# ウィークリーレポート

2022年  
8月8日  
発行

第143回

「光が差してきた世界の株式市場」

～日本株好調はまだまだ続く～

## 初めに

長く低迷してきた世界の株式市場に、明るい光が差してきたと思います。ウクライナ戦争やインフレといった悪材料が改善しつつあるからです。今回は、その理由についてお話しします。

## ウクライナからの穀物輸出が開始

第一の理由はウクライナ情勢の改善です。米国の武器支援などから戦闘はウクライナが巻き返している模様です。ロシアが占領した集落をウクライナが奪還したとの報道もあります。さらに重要と考えられるのは、穀物輸出がロシアの妨害なく進んでいることです。これは、プーチン露大統領がウクライナ戦争そのものの出口を模索し始めたことを示すとも考えられます。

## インフレ圧力は低下

ウクライナ戦争と並んで株式市場の悪材料だったインフレについても変化が見えています。例えば原油価格です。6月上旬を境に下落に転じましたが、まだ底入れしたとは思えません。他の商品についても同様で、このインフレ圧力の低下も株式市場にとって大きなプラスと見ています。

## 欧米株出遅れのわけ

これらのことから、世界の株式市場は既に上昇局面入りしていてもおかしくないと考えています。ただ、少し気になることがあります。ウクライナ情勢の好転・インフレ圧力の低下いずれも世界全体の株式市場にとってプラスとなるものですが、実際にはそうならず、日本株が他市場に比べて好調に推移する一方、欧米株は鈍い動きにとどまっています。

## 欧州株は今後のエネルギー問題に警戒

その理由について、自分は以下のように考えています。EUはエネルギーに関して今までロシアからの天然ガス供給に大きく依存してきました。しかし、これからはそうはいきません。どのようにして寒い欧州の冬を乗り切るか考えなければいけません。こうしたエネルギーに関する不透明感などが欧州株の動きを鈍いものにさせていると思います。

## 米国投資家は景気の先行きに慎重

日本経済新聞は去る8月5日付け朝刊で「米株、予想引き下げ相次ぐ」という記事を掲載しました。それによると、米国投資家は景気の悪化を警戒して株式投資に慎重になっているようです。米国・欧州とも理由は違いますが、それぞれの株式市場について慎重なところは同じでしょう。これが、ここまで日本株が他市場に対し好調を持続している理由だと思っています。この傾向はしばらく続くと見ています。

(裏面へつづく)



チーフストラテジスト  
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.  
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)  
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号  
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業  
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。

## 日本株比率引き下げは撤回

前々回の当レポート「日本株の比率を引き下げる3つの理由」（22年7月21日発行）では日本株比率引き下げのタイミングだと申し上げましたが、こうした状況から日本株比率引き下げは撤回させて頂き、日本株優位はまだまだ続く、とさせて頂きます。



チーフストラテジスト  
門司さんにきいてみよう!

